

研修No. 10

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 17日
研究・研修課題名	CDR認定の取得
研究・研修組織名(所属)	CDR認定の取得 (MEセンター)
研究・研修責任者名(所属)	古谷 昭人 (MEセンター)
研究・研修実施者名(所属)	古谷 昭人 (MEセンター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果 ()
該当者名(所属)	古谷 昭人 (MEセンター)
学会名(会期・場所)、認定名等	IBHRE 試験 CDR 認定
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	2022/10/5
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有 () <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

多岐にわたる CIEDs (植え込み型心臓デバイス) の専門的な知識を有し、医療従事者として高い倫理観を備えた臨床工学技士になるために CDR 認定を取得する。

②方法

IBHRE 試験に合格し CDR 認定を受ける。

- ①IBHRE 試験を受験し合格する
- ②CDR 認定を受ける

③成果

今回の IBHRE 試験に合格し、CDR 認定を受けることができた。

現在、臨床現場でサポートしている立ち入り業者は全員 CDR 認定を取得しており、CIEDs 業務における知識を十分に有している。

これまでは業者の多大なサポートの下、CIEDs 業務は安全に行えていたが、コロナ禍での立会い制限や遠隔モニタリングの普及に伴い、医療従事者の負担が増えてきた。

今回 CDR 認定を取得するにあたり、CIEDs (植え込み型心臓デバイス) に関するトレーニングを多くこなし、患者へより安全な CIEDs 治療を提供することができている。

また経済面においては、これまで業者立会いしていた業務を臨床工学技士のみで行い、立会い回数を減らすことで立会い料の支出を減らすことができている。

さらに遠隔モニタリング導入数の増加に伴い臨床工学技士の負担も増えるが遠隔モニタリング加算による増収が見込める。

よって CDR 認定の取得により、患者への安全な医療の提供と共に経済面でも病院に貢献できていると考える。

また CIEDs の領域は日々発展しているので、更なる勉学に励む。